

【建設業動向調査概況】

1. 調査概要

産業振興部産業連携開発課では、市内建設業の経営動向を探る手段として、アンケート調査を実施しています。

今回は 2025 年7月から9月期(3期)の業況について調査を行い、その結果については下記のとおりとなりました。

2. 調査実施要領

- (1) 実施時期 2025 年 10 月
- (2) 対象企業 須坂市内に事業所を有する建設業 40 社
- (3) 回答企業数 21 社(回答率 52.5%)
- (土木4社、建築・大工・左官5社、電機8社、水道4社)

3. 調査概況

実施要領のとおり動向調査を行った結果、業況判断指数(DI:「好転」と回答した企業割合と「悪化」と回答した企業割合の差)については次のとおりとなりました。

市内建設業の業況は、前期(2025 年4月～6月期)より悪化しました。

前期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が0.0%、「悪化」とする企業の割合が33.3%で「好転」から「悪化」を引いた差(DI)は▲33.3ポイントとなりました。

前回の調査結果DIポイント ▲22.2と比較しますと、11.1ポイント悪化しました。

また、前年同期と比べた業況は、「好転」とする企業の割合が9.5%、「悪化」とする企業の割合が42.9%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲33.4ポイントとなりました。

業種別の業況判断指数(DI)は、土木関係が▲25.0ポイント(前回:20.0ポイント)、建築関係が▲20.0ポイント(前回:0.0ポイント)、電機関係が▲25.0ポイント(前回:▲40.0ポイント)、水道関係が▲75.0ポイント(前回:▲75.0ポイント)となっております。

3か月後の次期予想では、「好転」とする企業の割合が4.8%、「悪化」とする企業の割合が23.8%であり、「好転」から「悪化」を引いた差は▲19.0ポイントとなり、今期より好転すると予想されます。

経営上の問題点(複数回答可)については、「原材料・仕入単価の上昇」が61.9%、「人材不足」が57.1%、「受注減少」が47.6%、「労働力不足」が42.9%、「技術力不足」が23.8%、「競争激化」が19.0%、「原材料不足」が14.3%、「金融難」が9.5%、「人員過剰」、「工期短縮」が0.0%となっております。

Q9 日銀松本支店が10月1日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(7月)と比較して、1割マイナスとなりました。製造業はマイナス9割と横ばい、非製造業は、プラス13割と2割悪化しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「好転している」0.0%、「今はないが、今後好転が見込まれる」4.8%、「変わらない」38.1%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」33.3%、「悪化している」23.8%。

Q10 2026年度に向けた採用の計画、希望はありますか。ある場合、現時点での採用状況を教えてください。(新卒、中途含む)

A 「概ね予定通り進んでいる」14.3%、「応募者はいるが期待する人材が見つからない」9.5%、「応募者が少なく採用に繋がらない」38.1%、「採用を予定していない」42.9%、「その他」0.0%。

Q11 外国の方を雇用されていますか。雇用されている場合、現在就業されている外国の方の人数を教えてください。

A 「雇用していない」81.0%、「雇用したいが現時点で就業者はいない」4.8%、「1～10人」4.8%、「10人以上」4.8%。

Q12 外国の方を採用されている場合、課題となる点がありましたら教えてください。

A 「コミュニケーションの不足」14.3%、「お互いの文化に対する理解」19.0%、「技術不足」9.5%。

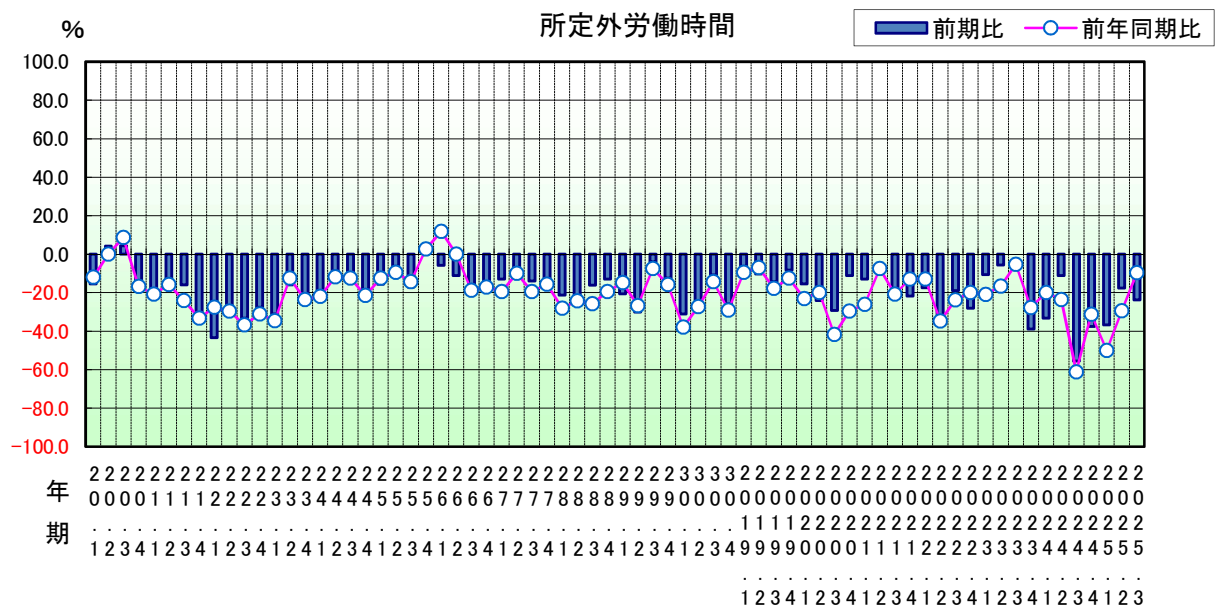
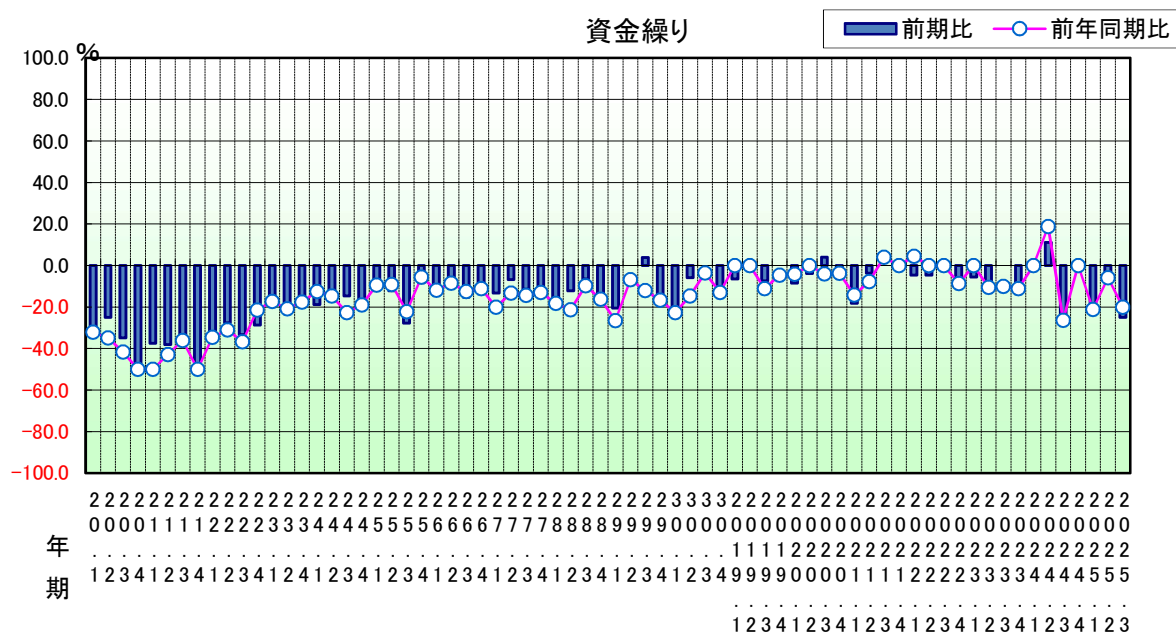
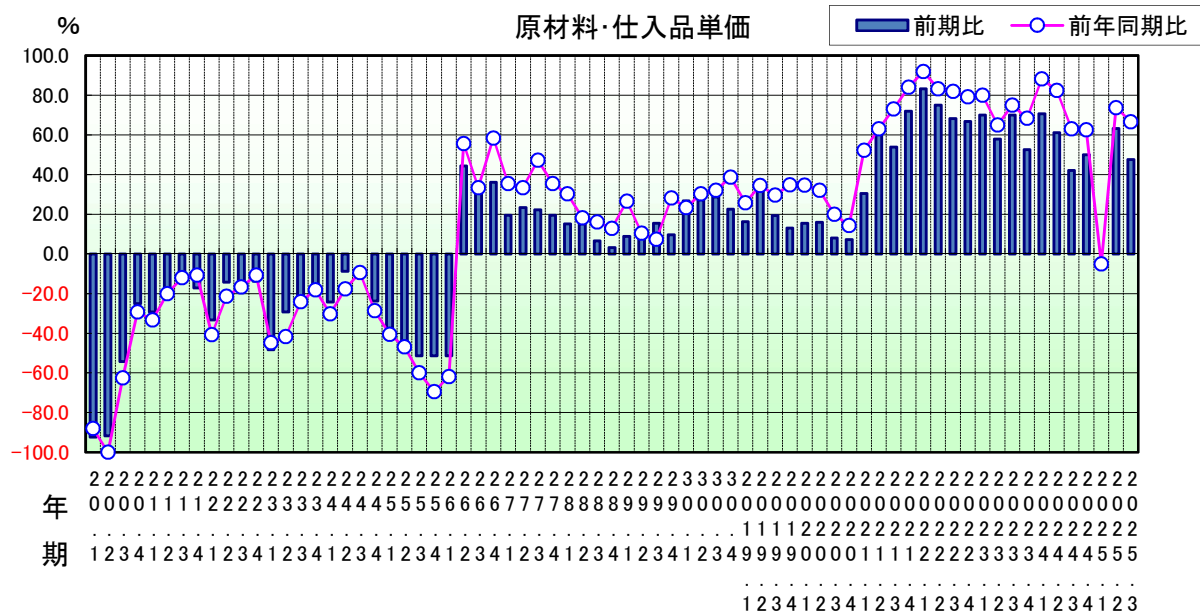
Q13 その他経営上の問題について

A 「働き方改革に伴い労働時間、時間外労働の見直しをしているが、運搬業務に関して時間外労働が検討事項である」

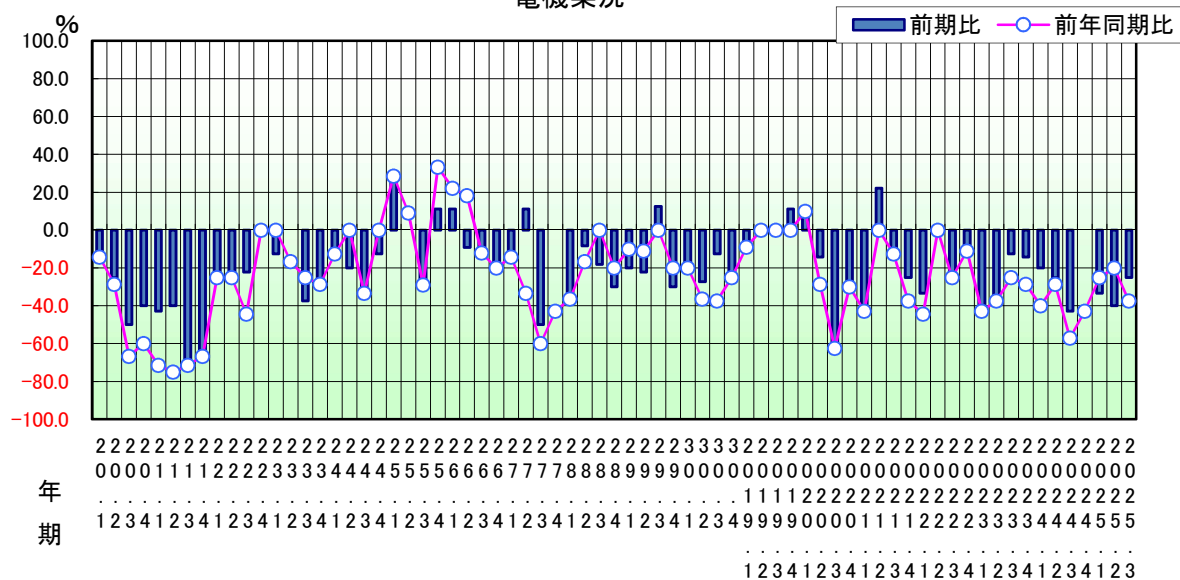
「技術の継承」

「公共事業が少ない」

「借入金返済で頭を悩ましています」



電機業況



水道施設業況

